

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
ソーシャルワーク演習 (専門) d		選択	2	4	前期 (集中) / 後期 (集中)	
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
渡邊 隆文 他	B307	t.watanabe	水曜日 12:10~13:00			
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt;相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術の習得を目指す。</p> <p>&lt;概要&gt;実践的な知識と技術を習得できるように実習での個別的な体験も視野にいれ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。形式として、課題学習、同時双方向授業で授業を展開する。課題学習ではテキストを基にしたレジュメを提示し、現場実習の振り返りを行う。同時双方向授業では事前に提示した授業資料を基に、受講生同士のディスカッションやグループワーク等を活用し理解を深める。</p>					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	<input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク
学習上の助言	演習を深めるために本演習前に一通り実習の振り返りを終わらせておくこと。					
教科書	教科書は指定しない。					
参考書	必要に応じてプリントを配布する。					
外部教材	特になし。					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	ソーシャルワークの価値・倫理について実践的な体験を踏まえて説明できる。			HC(2)		
②	相談援助に係る知識と技術について造詣を深め、実践できる。			HC(5)		
③	理論と実践の融合について理解を深め、説明できる。			HC(3)、(5)		
④	自分と他者との価値観・考え方の違いを理解し、説明できる。			HC(4)、(6)		
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーション (演習の進め方、評価についての説明) 実習後演習の意義について理解する。	講義	相談援助実習で体験した場面や悩んだ場면을まとめ作業を行う。	4		
2	実習の振り返り① (価値・知識・技術の視点から整理を行う。)	演習		4		
3	実習の振り返り② (印象的な出来事・インシデントシートを作成する。)	演習		4		
4	実習の振り返り③ (印象的な出来事の共有を行う。)	グループワーク・ディスカッション	実習の振り返りをグループワークで共有し、得た学びを整理する。	4		
5				4		
6				4		
7				4		
8				4		
9				4		
10	実習の振り返り④ (インシデントシートの発表・ソーシャルワークの視点から考察する。)	グループワーク・ディスカッション	インシデントシートを通して自身の考えとソーシャルワークの根拠との擦り合わせを行い、ソーシャルワークについて考察する。	4		
11				4		
12				4		
13				4		
14				4		
15				4		
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照					

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	0	0	0	100	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	20	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	15	15
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	15	15
	コミュニケーション力	0	0	0	0	15	15
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	15	15
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	20	20
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓					
	②	✓					
	③	✓	演習への参加状況、取り組み状況および授業中に行う提出課題の達成度により評価する。				
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	田村 正人						
教員の実務経験	渡邊 隆文：社会福祉士取得後 6 年の実務経験を有する。 田村 正人：社会福祉士取得後 13 年の実務経験を有する。						
実践的授業の内容	教科書に記載されている一般的事項を教えつつ、社会福祉士としての教員自身の実例を示し、その実践知と教科書に記載されている理論知を比較しながら学習する。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講時期：後期（集中）は編入生のみ履修可。</li> <li>・社会福祉士取得希望者は必ず履修すること。</li> <li>・教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めないこともある。</li> </ul>						